

14:1 また私は見た。見よ。小羊がシオンの上の山の上に立っていた。また小羊とともに十四万四千人の人たちがいて、その額には小羊の名と、小羊の父の名とがしるしてあった。 14:2 私は天からの声を聞いた。大水の音のようで、また、激しい雷鳴のようであった。また、私の聞いたその声は、立琴をひく人々が立琴をかき鳴らしている音のようでもあった。 14:3 彼らは、御座の前と、四つの生き物および長老たちの前とで、新しい歌を歌った。しかし地上から贖われた十四万四千人のほかには、だれもこの歌を学ぶことができなかつた。 14:4 彼らは女によって汚されたことのない人々である。彼らは童貞なのである。彼らは、小羊が行く所には、どこにでもついて行く。彼らは、神および小羊にささげられる初穂として、人々の中から贖われたのである。 14:5 彼らの口には偽りがなかつた。彼らは傷のない者である。 14:6 また私は、もうひとりの御使いが中天を飛ぶのを見た。彼は、地上に住む人々、すなわち、あらゆる国民、部族、国語、民族に宣べ伝えるために、永遠の福音を携えていた。 14:7 彼は大声で言った。「神を恐れ、神をあがめよ。神のさばきの時が来たからである。天と地と海と水の源を創造した方を拝め。」 14:8 また、第二の、別の御使いが続いてやって来て、言った。「大バビロンは倒れた。倒れた。激しい御怒りを引き起こすその不品行のぶどう酒を、すべての国々の民に飲ませた者。」 14:9 また、第三の、別の御使いも、彼らに続いてやって来て、大声で言った。「もし、だれでも、獣とその像を拝み、自分の額か手かに刻印を受けるなら、 14:10 そのような者は、神の怒りの杯に混ぜ物なしに注がれた神の怒りのぶどう酒を飲む。また、聖なる御使いたちと小羊との前で、火と硫黄とで苦しめられる。 14:11 そして、彼らの苦しみの煙は、永遠にまでも立ち上る。獣とその像とを拝む者、まただれでも獣の名の刻印を受ける者は、昼も夜も休みを得ない。 14:12 神の戒めを守り、イエスに対する信仰を持ち続ける聖徒たちの忍耐はここにある。」 14:13 また私は、天からこう言っている声を聞いた。「書きしるせ。『今から後、主にあつて死ぬ死者は幸いである。』」御霊も言われる。「しかり。彼らはその労苦から解き放されて休むことができる。彼らの行いは彼らについて行くからである。」 14:14 また、私は見た。見よ。白い雲が起こり、その雲に人の子のような方が乗っておられた。頭には金の冠をかぶり、手には鋭いかまを持っておられた。 14:15 すると、もうひとりの御使いが聖所から出て来て、雲に乗っておられる方に向かって大声で叫んだ。「かまを入れて刈り取ってください。地の穀物は実つたので、取り入れる時が来ましたから。」 14:16 そこで、雲に乗っておられる方が、地にかまを入れると地は刈り取られた。 14:17 また、もうひとりの御使いが、天の聖所から出て来たが、この御使いも、鋭いかまを持っていた。 14:18 すると、火を支配する権威を持ったもうひとりの御使いが、祭壇から出て来て、鋭いかまを持つ御使いに大声で叫んで言った。「その鋭いかまを入れ、地のぶどうのふさを刈り集めよ。ぶどうはすでに熟しているのだから。」 14:19 そこで御使いは地にかまを入れ、地のぶどうを刈り集めて、神の激しい怒りの大きな酒ぶねに投げ入れた。 14:20 その酒ぶねは都の外で踏まれたが、血は、その酒ぶねから流れ出て、馬のくつわに届くほどになり、千六百スタディオンに広がった。

## 導入

先々週の黙示録 13 章の学びで、海から出た獣が反キリスト者であることと地から出た獣が偽預言者であることを学びました。

このふたつは結託して、偽りを教えて世界中の人々をだまします。

その方法は、しるしや不思議な業を行い、反キリスト者の死と復活をでっちあげるといふものです。

この時代の人々は、獣の名や刻印を右手か額に受けていなければ売り買いすることができません。

(黙示録 13 : 17)

そして、話す能力を得た獣の像を拝むように命じられます。

この時代に生きるクリスチャンは、忍耐を保ち、獣に対して武力で対抗しないようにと語られます。

ただ、イエスに忠実にあるようにと命じられます。

では、14 章の学びに入ります。

1-5 節には、7 章に登場した 14 万 4 千人が再び登場します。

7章の学びの際、14万4千人の人々が誰であったかに関する可能性について説明しましたが、そのときにいなかった人もいたので、もう一度説明したいと思います。  
この個所を改めて学ぶことで、私たちにとっての励ましになるでしょう。

### 1. 14:1-5 に登場する 14万4千人は誰でしょう。

聖書でこの14万4千人について記されているのは、黙示録14章と7章だけです。  
ですから、その可能性についての全容を知るには、このふたつの聖書個所に記された情報が必要です。  
聖書が教えてくれる情報は以下のとおりです。

- a) 14万4千人はイスラエルの各部族から出たユダヤ人である。(黙示録7:5-8)
- b) 女によって汚されたことのない童貞である。(黙示録14:4)
- c) 人々の中から贖われた神および小羊にささげられる初穂である。(黙示録14:4)
- d) 小羊が行く所には、どこにでもついて行く。(黙示録14:4)

この人々に関する情報はこれだけです。  
では、この人々が誰であるかの可能性を示す情報を聖書から探し出さなくてはなりません。

最初に、コリント第一15:20を読みましょう。

Iコリント15:20しかし、今やキリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえられました。

この個所では、イエス・キリストの復活が「初穂」と表現されています。また、この「初穂」という単語が複数形であることも注目すべき点です。

次に、イザヤ書53:1-8を読みましょう。

53:1 私たちの聞いたことを、だれが信じたか。【主】の御腕は、だれに現れたのか。53:2 彼は主の前に若枝のように芽ばえ、砂漠の地から出る根のように育った。彼には、私たちが見とれるような姿もなく、輝きもなく、私たちが慕うような見ばえもない。53:3 彼はさげすまれ、人々からのけ者にされ、悲しみの人で病を知っていた。人が顔をそむけるほどさげすまれ、私たちも彼を尊ばなかった。53:4 まことに、彼は私たちの病を負い、私たちの痛みをになった。だが、私たちは思った。彼は罰せられ、神に打たれ、苦しめられたのだと。53:5 しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちはいやされた。53:6 私たちはみな、羊のようにさまよい、おのおの、自分かってな道に向かって行った。しかし、【主】は、私たちのすべての咎を彼に負わせた。53:7 彼は痛めつけられた。彼は苦しんだが、口を開かない。ほふり場に引かれて行く羊のように、毛を刈る者の前で黙っている雌羊のように、彼は口を開かない。53:8 しいたげと、さばきによって、彼は取り去られた。彼の時代の者で、だれが思ったことだろう。彼がわたしの民のそむきの罪のために打たれ、生ける者の地から絶たれたことを。

7節には、イエスが羊であると記されています。

8節には、イエスの同年代に関する問いがあります。

この問いに答えるには、マタイ2:13-18を読みましょう。

英語は、現在使われている聖書でもっとも古い翻訳である欽定訳から引用します。

2:13 彼らが帰って行ったとき、見よ、主の使いが夢でヨセフに現れて言った。「立って、幼子とその母を連れ、エジプトへ逃げなさい。そして、私が知らせるまで、そこにいなさい。ヘロデがこの幼子を捜し出して殺そうとしています。」2:14 そこで、ヨセフは立って、夜のうちに幼子と

その母を連れてエジプトに立ちのき、**2:15** ヘロデが死ぬまでそこにいた。これは、主が預言者を通して、「わたしはエジプトから、わたしの子を呼び出した」と言われた事が成就するためであった。**2:16** その後、ヘロデは、博士たちにだまされたことがわかると、非常におこって、人をやって、ベツレヘムとその近辺の二歳以下の男の子をひとり残らず殺させた。その年齢は博士たちから突き止めておいた時間から割り出したのである。**2:17** そのとき、預言者エレミヤを通して言われた事が成就した。**2:18** 「ラマで声がする。泣き、そして嘆き叫ぶ声。ラケルがその子らのために泣いている。ラケルは慰められることを拒んだ。子らがもういないからだ。」

どの訳の聖書でも、**2**歳以下の子どもたちが殺されたと記されていますが、その地域はベツレヘムとその近辺とあります。

一方、欽定訳はその地域について「すべての沿岸地域」と明言します。

殺された子どもたちがイスラエルのすべての沿岸と関連付けられています。

旧約聖書の歴史を見ると、イスラエルの全部族が、沿岸に通じる土地を与えられました。

沿岸に直接面していない土地を受け継いだ部族もありましたが、沿岸に面した土地を受け継いだ部族もありました。

当時、「イスラエルのすべての沿岸地域」と言えば、それは、イスラエルのすべての部族を含むという意味でした。

暴君ヘロデは、イエスを確実に殺害するためには、イスラエル全土のユダヤ人の赤ちゃんを殺さなければならないと考えました。

この「すべての沿岸地域」という表現は、**14万4千人**を特定する上でとても重要です。

マタイ**2:17-18**から、イエスがお生まれになった時代にすべての赤ちゃんが殺されることは預言の成就であったことがわかります。

この預言を理解するには、エレミヤの預言を読まなければなりません。

エレミヤ**31:15** 【主】はこう仰せられる。「聞け。ラマで聞こえる。苦しみの嘆きと泣き声が。ラケルがその子らのために泣いている。慰められることを拒んで。子らがいなくなったので、その子らのために泣いている。」

次に、**31:16-17**に注目しましょう。

**31:16** 【主】はこう仰せられる。「あなたの泣く声をとどめ、目の涙をとどめよ。あなたの労苦には報いがあるからだ。——【主】の御告げ——彼らは敵の国から帰って来る。**31:17** あなたの将来には望みがある。——【主】の御告げ——あなたの子らは自分の国に帰って来る。

エレミヤは、赤ちゃんが殺されることだけでなく、その赤ちゃんがいつの日か自分たちの国に帰ってくるについても預言しています。

赤ちゃんが殺されることについての預言がエレミヤ書にあることはよく知られていますが、実際にその箇所を開いて、その次の数節まで読む人は多くありません。

こうして、黙示録**14**章と**7**章に登場する**14万4千人**のユダヤ人が、イエスのお生まれになった時代にヘロデに殺された赤ちゃんかもしれないという聖書的根拠が示されたわけです。

クリスチャンは皆、自分自身が復活することを信じています。ですから、神がこの赤ちゃんのたましいを死からよみがえらせて、新しい体をお与えになったとしても、私たちにとってそれは信じられないことではありません。

**14万4千人**の特定を終える前に、旧約聖書からもうひとつみことばを読みたいと思います。

その前に、黙示録**7:1**に注目してください。

黙示録**7:1** この後、私は見た。四人の御使いが地の四隅に立って、地の四方の風を堅く押さえ、地にも海にもどんな木にも、吹きつけないようにしていた。

ここに、「地の四方の風」とあります。

聖書の中で、「地の四方の風」が登場する個所が他にあるでしょうか。

そのひとつはエゼキエル書です。エゼキエル 37：1-14 を読みましょう。

37:1 【主】の御手が私の上であり、【主】の霊によって、私は連れ出され、谷間の真ん中に置かれた。そこには骨が満ちていた。37:2 主は私にその上をあちらこちらと行き巡らせた。なんと、その谷間には非常に多くの骨があり、ひどく干からびていた。37:3 主は私に仰せられた。「人の子よ。これらの骨は生き返ることができようか。」私は答えた。「神、主よ。あなたをご存じます。」37:4 主は私に仰せられた。「これらの骨に預言して言え。干からびた骨よ。【主】のことばを聞け。37:5 神である主はこれらの骨にこう仰せられる。見よ。わたしがおまえたちの中に息を吹き入れるので、おまえたちは生き返る。37:6 わたしがおまえたちに筋をつけ、肉を生じさせ、皮膚でおおい、おまえたちの中に息を与え、おまえたちが生き返るとき、おまえたちはわたしが【主】であることを知ろう。」37:7 私は、命じられたように預言した。私が預言していると、音がした。なんと、大きなとどろき。すると、骨と骨とが互いにつながった。37:8 私が見ていると、なんと、その上に筋がつき、肉が生じ、皮膚がその上をすっかりおおった。しかし、その中に息はなかった。37:9 そのとき、主は仰せられた。「息に預言せよ。人の子よ。預言してその息に言え。神である主はこう仰せられる。息よ。四方から吹いて来い。この殺された者たちに吹きつけて、彼らを生き返らせよ。」37:10 私が命じられたとおりに預言すると、息が彼らの中に入った。そして彼らは生き返り、自分の足で立ち上がった。非常に多くの集団であった。37:11 主は私に仰せられた。「人の子よ。これらの骨はイスラエルの全家である。ああ、彼らは、『私たちの骨は干からび、望みは消えうせ、私たちは断ち切られる』と言っている。37:12 それゆえ、預言して彼らに言え。神である主はこう仰せられる。わたしの民よ。見よ。わたしはあなたがたの墓を開き、あなたがたをその墓から引き上げて、イスラエルの地に連れて行く。37:13 わたしの民よ。わたしがあなたがたの墓を開き、あなたがたを墓から引き上げるとき、あなたがたは、わたしが【主】であることを知ろう。37:14 わたしがまた、わたしの霊をあなたがたのうちに入れると、あなたがたは生き返る。わたしは、あなたがたをあなたがたの地に住みつかせる。このとき、あなたがたは、【主】であるわたしがこれを語り、これを成し遂げたことを知ろう。——【主】の御告げ——」

エゼキエルは、死人が生き返ると預言し、「四方から吹く息」ということばを使っています。

結論として、黙示録 14 章に登場する 14 万 4 千人は、イエスのお生まれになった時代にヘロデによって殺された赤ちゃんのよみがえりだと考える十分な根拠があると言えるでしょう。

もしそうなら、これは私たちにとって大きな励みとなります。イエスと同世代の 14 万 4 千人もの赤ちゃんが虐殺された事件に神が正義をもたらされるからです。

14 章から、14 万 4 千人について他にわかることはあるでしょうか。

彼らの額には、神の名が記されていました。

彼らは神のしもべです。

反キリスト者と偽預言者は、獣の名やしるしを人々の額に刻ませました。

ここに登場する神のしもべたちは、神にとって特別な存在で、神の名がはっきりと額に記されていました。

また、他の人たちが習うことのできない新しい歌を 14 万 4 千人が歌っていたとあります。

歌うことは、私たちの心を表現するすばらしい方法です。

同時に、悲しい時や落ち込んでいる時はなかなか歌うことができません。

つまり、この 14 万 4 千人の人々には、他の人にはない喜びがあったということです。

ある英国人の詩人は言いました。

「苦しみの中で習得したことを歌の中で教えるのである。」

つまり、苦難をとおしてしか得られない成熟した信仰や知恵があるということです。  
そのような歌は苦しんだ経験がなければ歌えません。  
神は賛美を良しとしてくださり、油注いでくださいます。

スコットランドのルイス島で 1949 年にリバイバルが起きました。  
そのとき、ある若い女性がクリスチャンになりました。  
その女性は、リバイバルの中で神がなさった御業を自ら体験しました。  
私はこの女性と長年の知り合いですが、彼女が私に言ったある言葉を決して忘れません。

「リバイバルの間で一番神が私たちの近くにおられたのは、詩篇を歌っている時でした。」

ひとつははっきりしているのは、天国には歌があふれていることです。その歌はとても特別な歌です。

#### **14 万 4 千人に関する適用**

実際に、14 万 4 千人がイエスのお生まれになった時代にヘロデによって殺された赤ちゃんだったなら、神が悲劇を麗しいできごとに変えてくださるというすばらしい例となります。

このようなことがおできになるのは、唯一神のみです。

私たちも、不当な扱いを受けて、なぜ神が不正を正してくださらないのかと思ったことがあるかもしれません。

けれども、神の時刻表は私たちの考えるものとは違います。

神はご自身のときに、悪を正すことがおできになるお方です。

「御手の中で」という賛美のとおりです。

「御手の中で  
すべてはわかる 賛美に  
わがゆく道を 導きたまえ  
あなたの御手の中で」

日本語の歌詞はこうですが、英語の歌詞の訳は以下のとおりです。

「主のときに、主のときに  
すべては主のときに美しくされる  
主よ、日々示してください  
あなたの道を教えてください  
あなたがおっしゃったことは必ずそうなる  
あなたのときに」

私自身、誰かにひどいことをされて傷つけられた経験があります。

けれども、神がご自身のときに、そのひどい仕打ちを正されたという経験もしました。

ソロモン王は言いました。

「天の下では、何事にも定まった時期があり、すべての営みには時がある。」（伝道者の書 3 : 1)

ですから、元気を出してください。あなたが経験した不当な扱いやひどい仕打ちは神が正してくださいます。ただし、そのときにあなたがまだこの地上にいるかどうかはわかりません。

すべての人はキリストの裁きの座の前に立つことになる、聖書は教えます。（ローマ 14 : 10)

では次に、6-13 節の 3 人の御使いたちの言葉について学びましょう。

#### **1. 福音の御使い。(6-8 節)**

6-8 節で、世界中の人々に福音を告げ知らせる役割を持った飛ぶ御使いが登場します。御使いが実際に福音を告げ知らせるわけではないので、この御使いが世界的な福音宣教の告知をするということでしょう。

この福音宣教は、神のしるしを額に受けた 14 万 4 千人のユダヤ人と関連があります。

16 章の「鉢の裁き」に近づいていることから、神は福音に応答する最後のチャンスをこの世に与えておられるわけです。

最後の裁きが下される前に、世界中に福音が告げ知らされます。

この役割を果たすのが 14 万 4 千人のユダヤ人だと私は考えます。

16 章で下される裁きはあまりにも厳しいので、その時代は誰も経験したくありません。

このときに地上に残された人々にとって、福音が唯一の望みです。また、今日地上に生きる私たちにとっても、福音が唯一の望みです。

パウロはローマ 1 : 16 で、「私は福音を恥とは思いません。福音は、…信じるすべての人にとって、救いを得させる神の力です。」と語りました。

私たちは、福音によって理解している内容をしっかり把握しておく必要があります。

黙示録のこの個所の時代には、人々は偽りの神を拝みます。反キリスト者と偽預言者に欺かれるからです。

ですから、御使いがまずしなければならないことは、本当の神がどのようなお方であるかについて真実を人々に告げることです。

黙示録 14:7 彼は大声で言った。「神を恐れ、神をあがめよ。神のさばきの時が来たからである。天と地と海と水の源を創造した方を拝め。」

- a) 神はこの世の創造主です。また、この世にあるすべてのものの創造主です。地球も、星も、太陽も、月も、宇宙にあるすべてをお造りになりました。桜の季節など、自然界は神の御手の業を映します。
- b) 神は 100% 聖なる存在です。罪に目を向けることはできません。神は必ず罪を罰せられます。ご自身を否むことができないからです。
- c) 神は、ご自身と関わらせるために人類をお造りになりました。神は、自由意思を持つ人間を造られました。人間はロボットのように造られたものではありません。選択の自由を与えられました。
- d) 残念ながら、最初の男女は誤った選択をしてしまいました。自らの創造主なる神に逆らうことを選び、死と神との別離という結果を招きました。人は生涯苦勞して働くという呪いを受け、いずれは死ぬ運命になりました。また、創造主とも永遠に引き離されました。
- e) しかし神はご自身のお造りになった人類を愛し、不従順の罪を赦される道を与えてくださいました。当初、それは動物の死によって可能になりました。動物の死が人の代わりに罰を受けたと見なされました。動物が罪深い人間の身代わりに死ぬのです。これは、神の御子イエス・キリストが現れるまでの一時的な解決でした。
- f) 神はご自身の御子イエス・キリストをこの世に遣わされました。神から引き離された人類の問題を永久に解決するためです。イエスが十字架上で死なれ、人類が受けるべき罪の罰を負ってくださるのです。
- g) 人は自らの罪を心から認めて赦しを求めるなら、イエスにその赦しを請うことができます。ただし、心からの真摯な思いでなければなりません。
- h) クリスマンでない人は、この一步を踏み出すことは神と神のみことばに従う決心をすることだと認識する必要があります。自分の思いどおりに生きることはもうできません。イエスに従い、イエスの弟子となるよう努めるのです。

イエスはマルコの福音書 8 : 34-37 で次のようにおっしゃいました。

8:34 それから、イエスは群衆を弟子たちといっしょに呼び寄せて、彼らに言われた。「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。 8:35 いのちを救おうと思う者はそれを失い、わたしと福音とのためにいのちを失う者はそれを救うのです。 8:36 人は、たとえ全世界を得ても、いのちを損じたら、何の得がありません。 8:37 自分のいのちを買い戻すために、人はいったい何を差し出すことができるでしょう。

この最終段階で多くの人々は脱落します。

イエスについていくために命をささげる覚悟が必要です。そうでないなら、それはイエスの福音ではありません。

自分なりのルールで進んでいくことはできません。イエスが弟子に求められる条件は 2000 年前も今も同じです。

## 2. バビロンの陥落を告知する御使い。(8 節)

バビロン陥落については、18 章で学ぶ予定です。

バビロンが実際の都市であるか、または信仰を捨てた教会を指すかについては、あらゆる見解があります。これも後日お話しします。

御使いは、バビロンが滅ぶと告知するために登場します。今の時点では、それだけに留めておきます。

## 3. 第三の御使いが、額か手に獣の刻印を受けた人々に対する裁きを告知する。

13 章では、獣の力について学びました。また、獣がすべての人に受けるよう命じる刻印についても学びました。この試練に屈してしまう人々に対する警告がここに記されています。

黙示録の中で、この警告がもっとも厳しい内容であることは興味深い点です。

信仰を捨てた教会が、もっとも厳しい裁きを受けるのです。

その理由のひとつは、この時代、教会が必死で生き残ろうとしているからでしょう。

個人個人のクリスチャンが獣の刻印に屈してしまえば、教会は絶えます。

個人個人のクリスチャンは神にとって非常に大切な存在なのです。

神は、ご自身の民をとおして働かれます。神の民は、福音を携える器なのです。

獣の刻印を受ける人々に対する裁きは、ここで衝撃的に描写されています。

- a) 火と硫黄とで苦しめられる。 一創世記 19 : 24 には、「そのとき、【主】はソドムとゴモラの上に、硫黄の火を天の【主】のところから降らせ、」とあります。神がソドムとゴモラに下されたのと同じ裁きが、獣の刻印を受けた人々に下されます。

- b) 昼も夜も休みを得ない。 ここから、神の恵みと赦しを拒む人々に対する神の裁きは、永遠のものであることがわかります。ノンクリスチャンはたいてい、死んだらすべてが終わりだと思っていますが、神のみことばである聖書は、そうは教えていません。

ヨハネ 5 : 28-29

5:28 このことに驚いてはなりません。墓の中にいる者がみな、子の声を聞いて出て来る時が来ます。 5:29 善を行った者は、よみがえっていのちを受け、悪を行った者は、よみがえってさばきを受けるのです。

最後に 12-13 節で、忠実な信徒たちが天から励まされます。

天からの声は次のように語りました。

「今から後、主にあって死ぬ死者は幸いである。」 「しかり。彼らはその労苦から解き放されて休むことができる。彼らの行いは彼らについて行くからである。」

恐ろしい裁きが下るといふ恐怖の預言と、信仰を捨てる人々への警告の後に、天からの恵みの約束が与えられます。

新約聖書には、「主にあつて死ぬ」というくだりが何度か登場しますが、実際にはどういふ意味でしょう。

(テサロニケ第一 4 : 16、コリント第一 15 : 18)

原語のギリシャ語は、「キリストとひとつであり続け、最後に至った者」といふ意味です。

つまり、最後まで忠実でありつづけた人は、報いとして神の祝福を受けるといふことです。

「しかり。彼らはその労苦から解き放されて休むことができる。彼らの行いは彼らについて行くからである。」

この個所の、「行い」といふ単語を理解するのが大切です。

ここでヨハネは「行い」といふ単語を使って、「品性」を指しています。

つまり、この地上を去る時、持っていけるものは自分自身以外に何もない、といふことです。

イエスとひとつでありつづけて人生の終わりを迎えたなら、金のように練られた品性をもって天国に行けるでしょう。

いつかイエスにお会いするときには、イエス・キリストに似た品性を持っていくこととなります。

#### 4. 刈り取りの裁き。(14-20 節)

14 章の最後のまぼろしは、ユダヤ人には馴染み深い裁きの描写です。

最初に、「人の子」のような方が白い雲に乗って来られます。

この方は、金の冠をかぶり、手には鋭いかまを持っておられました。

これは、ダニエルが見たまぼろしと似ています。

ダニエル 7 : 13-14

7:13 私がまた、夜の幻を見ていると、見よ、人の子のような方が天の雲に乗って来られ、年を経た方のもとに進み、その前に導かれた。 7:14 この方に、主権と光栄と国が与えられ、諸民、諸国、諸国語の者たちがことごとく、彼に仕えることになった。その主権は永遠の主権で、過ぎ去ることがなく、その国は滅びることがない。

この裁きにはふたつの要素があります。

それは「刈り取り」と「酒ぶね」といふ言葉で表現されています。

このたとえは、ユダヤ人にはとても馴染み深いものです。

旧約聖書には、神の裁き指す言葉として、刈り取りや刈り入れがよく用いられます。

ヨエル 3:13 かまを入れよ。刈り入れの時は熟した。来て、踏め。酒ぶねは満ち、石がめはあふれている。彼らの悪がひどいからだ。

マルコ 4:29 実が熟すると、人はすぐにかまを入れます。収穫の時が来たからです。

マタイ 13 : 24-30

13:24 イエスは、また別のたとえを彼らに示して言われた。「天の御国は、こゝうの人にたとえることができます。ある人が自分の畑に良い種を蒔いた。 13:25 ところが、人々の眠っている間に、彼の敵が来て麦の中に毒麦を蒔いて行った。 13:26 麦が芽ばえ、やがて実ったとき、毒麦も現れた。 13:27 それで、その家の主人のしもべたちが来て言った。『ご主人。畑には良い麦を蒔かれたのではありませんか。どうして毒麦が出たのでしょうか。』 13:28 主人は言った。

『敵のやったことです。』すると、しもべたちは言った。『では、私たちが行ってそれを抜き集めましょうか。』 13:29 だが、主人は言った。『いやいや。毒麦を抜き集めるうちに、麦もいっしょに抜き取るかもしれない。 13:30 だから、収穫まで、両方とも育つままにしておきなさい。収穫の時期になったら、私は刈る人たちに、まず、毒麦を集め、焼くために束にしなさい。麦のほうは、集めて私の倉に納めなさい、と言いましょ。』」

13:37 イエスは答えてこう言われた。「良い種を蒔く者は人の子です。 13:38 畑はこの世界のこと、良い種とは御国の子どもたち、毒麦とは悪い者の子どもたちのことです。 13:39 毒麦を蒔いた敵は悪魔であり、収穫とはこの世の終わりのことです。そして、刈り手とは御使いたちのことです。 13:40 ですから、毒麦が集められて火で焼かれるように、この世の終わりにもそのようになります。 13:41 人の子はその御使いたちを遣わします。彼らは、つまずきを与える者や不法を行う者たちをみな、御国から取り集めて、 13:42 火の燃える炉に投げ込みます。彼らはそこで泣いて歯ぎしりするのです。 13:43 そのとき、正しい者たちは、彼らの父の御国で太陽のように輝きます。耳のある者は聞きなさい。

裁きの描写には、酒ぶねのたとえも用いられます。

当時の酒ぶねには、上下2段の桶があり、そのふたつは管でつながっていました。桶は、大きな岩をくり抜いたものや、泥のレンガで作られたものがありました。ぶどうは、少し高い位置にある上段の桶に入れられます。人の足でぶどうを踏み潰すと、ぶどうのジュースが管を通して、下段の桶に入ります。旧約聖書では、神の裁きがぶどうを踏み潰す様子に例えられました。

哀歌 1:15 主は、私のうちにいたつわものをみな追い払い、一つの群れを呼び集めて、私を攻め、私の若い男たちを滅ぼされた。主は、酒ぶねを踏むように、おとめユダの娘を踏みつぶされた。

20 節には、酒ぶねが都の外で踏まれ、酒ぶねから出た血は馬のくつわに届くほど、1600 スタディオンに広がったとあります。

これについてはあらゆる解釈がありますが、ひとつだけ言えることは、イスラエルの長さが約 1600 スタディオン、つまり、約 300km です。

どんな解釈をするにせよ、神の裁きが厳しく包括的であることは明らかです。

## 適用

最後に、今日ここにいる皆さんとインターネットで聞いている世界中の皆さんに大切な応用ポイントをひとつお伝えします。

それは、将来やってくる神の裁きを免れる唯一の方法は、イエス・キリストに信仰をおき、救い主として信じることです。

自分自身がそれほどひどい罪を犯したと思えないかもしれませんが、神の聖さの基準に照らして自分がどれほど間違っているか示されるように、神に祈ってみてください。

イザヤは神の聖さを見て、自らの罪をひしひしと自覚しました。私たちも同じように、神の聖さをもっと知らなければなりません。

今日、神があなたの心に語りかけられたなら、イエスに罪の赦しを祈り求めてください。

それが唯一、神の裁きを免れる道です。